
上条当麻と占いとチョコレート

キラ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

上条当麻と占いとチョコレート

【コード】

N8980Q

【作者名】

キラ

【あらすじ】

バレンタインデーにちなんで、禁書目録で短編書いてみました。

一応インデックスメイン…なのかな？

上条当麻の日記

2月9日

そういえばもうすぐバレンタインデーだな。やっぱり一高校生として本命とは言わなくても義理チョコのひとつや2つくらいは欲しいと切実に思う。　　みたいなことを青髪ピアスに話したら右ストリートを喰らった。解せぬ……

2月10日

インデックスにそれとなく『日本には2月14日に好きな男とか男友達にチョコをあげる慣習がある』と言っておいた。そしたらバレンタイン牧師に関する話を延々と続けられた。最終的にはなんで女男限定なのか、男　女でもいいじゃないかとか言われた。俺に作れと要求しているようにしか聞こえなかった。これじゃあ望み薄か……

2月11日

あーあ、チョコ欲しいなー。今からでも誰かと仲良くなって義理だけでももらえないかなー　　と土御門に言ったら顔面に本気の蹴りを喰らった。だから何故なんだ……

2月12日

週刊少年ジャンプもバレンタインデー話ばかりで立ち読みしてたら辛くなってきた。

2月13日

今日は忙しかったから一言だけ。誰かチョコください。

そして、2月14日。

意外と手間のかかる髪の毛のセットを終え、私上条当麻は歯を磨きながらテレビのニュースを見ていた。

『では、今日の星座占いの時間でーす』

占い専門のお姉さんが出てきて、各星座の運勢を発表していく。いつもは1位だろうが最下位だろうが不幸な出来事は起きるため、こういうのは気にしないのだが、今日はバレンタインデー。チョコをもらえなかった負け組には絶望しか残らないのであるからして、自然とテレビ画面に集中することとなる。

『最後はみずがめ座ですねー。残念ながら今日は運勢最悪でーす。』

…特に今歯を磨いているツンツン頭の人。 ……今日死ぬかも。バツ
ドアイテムはチヨコレート!』

「おいしいっ!?!」

何そのピンポイントな占い!?!これ俺ひとりに向けての占いなんじゃないの、どうなの?大体バレンタインデーの日のバツドアイテムがチヨコレートってなんなんだよ。もらうなってか!チヨコもらうなってか!?!

『ま、せいぜい生き残れるようにあがいてくださいねー』

「口悪いなオイ!?!」

思わず声に出して突っ込んでしまったが、当然返事が返ってくるはずもなく。

……ま、まあ、所詮占いだよな、うん。

「…き、奇遇ね。朝から出くわすなんて」

ミサカミコト ガ アラワレタ！
カミジヨウ ハ ドウスル？

・ニゲル
・スルー スル
・イキナリ ハシル
・ゼンソクリヨク ダツシュ

「ってなんでまともな選択肢がないのよ！つか表現変えただけで75%は逃げるって選択じゃない！？」

「うーん…朝から全速力ダツシュはMP消費がなあ……」

「しかも真面目に吟味すんな！あなたの人生はなんちゃってゲームなわけ！？しかも全部力タカナとかファミコン以下かコラ！」

「ファミコンもいけどメガドライブのことも忘れないでね」

「もう一体何の話だ〜!!」

バチン!という音とともに襲ってきた雷撃を、なんとか右手を突き出して打ち消す。

「うわっ!朝っぱらから何すんだ御坂!」

「今回はかりは100%あんたが悪いと言い切る自信があるわ。なんで朝の挨拶がメガドライブのPRになるわけ?」

メガドライブがわからない方はウィキペディアあたりにGO!

「……いや、悪いな。ちょっと朝の占いの結果がショックで……」

さすがに先ほどの会話運びは俺が悪いので、ここは素直に謝っておく。

「はあ?占ってあんた、そんなもん引きづったって」

あれ、言葉の途中で御坂の動きが止まったぞ。どうしたんだ？

「おーい、御坂さーん」

「ふえ？い、いや、なんでもにやいわよ。……そっか、占いか」

なんか後半部分が聞き取れなかったんだが、何かあったのだろうか。

「そ、そう言えば、実は私も昨日見た占いの結果が問題ありでね？」

「へえ、お前もか。どんな内容だったんだ？」

「……………」

あれ？なんでそこで黙り込むの？なんでちょっと顔が赤くなってるの？

「…………バレンタインデーに男子に手作りチョコレートあげないと死ぬって内容だった」

「いやどんな占いだよ。どんだけ些細なことが原因で死ぬんだよお

前。しかもさりげに手作り限定かよ」

「いや、そりゃ私も信じてないけどさ！信じてないけど、念には念を押すってわけで、その、だから……はい」

「ごによごによ言いながら御坂が渡してきたものは

「……手作りチョコ？…え、俺に？」

「か、勘違いすんじゃないわよ。こ、これはその、あくまで不幸を避けるためのもので……」

「……というわけで、なんか朝から早くも勝ち組になれそうな感じなんですが。」

「だけど

『バッドアイテムはチョコレート』

「どうも引っかかるんだよなあ……」

「……な、何よ。いらないうってんなら別にいいのよ。私、あつちに（邪魔してきたから気絶させて）置いてきた黒子のところに行かなきゃなんないから……は、早く決めなさいよ」

どーすんだ、どーすんのよ俺！

現在、自教室。

御坂のチヨコ？ああ、当然もらいましたよ。だっていくら不吉といつても、占いく（黙っていれば）美少女からの義理チヨコだろう、普通に考えて。

まあ、仮に占いが当たるとしても、バッドアイテム一個ならいつも通りの不幸で済むんじゃない

「上条君。……これ。『クラスメートの幸薄げな少年に手の込んだおいしいチョコレート顔を赤らめながらあげないと死ぬ』って占いで……」

「姫神：？いや、だから何その占い。どんだけピンポイントなの、なんでチョコ渡す時の表情まで指定されてんだよ」

つか占いブームなのか、そうなのか!？

「上条当麻!……『通販でうつかり買ってしまったチョコレートを不幸不幸と自分に甘くしている腑抜けの男にあげないと死ぬ』って占いで……」

「ねえよ!つかそれチョコ渡す相手を中傷してるよな!明らかに俺を責めてるよな吹寄!?!」

姫神に吹寄……こいつら一体どこの占い見てるんだ!？

そんなこんなでチョコが増加したところで

「……カミヤん。実は僕ら男子全員、占いで『クラスにいる一番の

女たらし（ウニ頭）を肅清しないと死ぬ』と言われとってな」

「長いようで短い付き合いだったけど、カミヤんのことには忘れないにゃー」

青髪ピアスと土御門に死刑宣告を受けた。

「ふおおおお！！MP全消費！全速力ダーーーーッシュ！！！！」

「「「「「逃がすかあ！！！！」「「「「」

やばい、全員目がマジだ。捕まったらミンチだ

「ふ、不幸だ……………」

奇跡的に負傷するだけで解放された俺は、現在ふらふらしながら寮に向かつて歩いている。…………… やつぱりチヨコもらったのがいけなかったのか？他にあいつらにはこぼこにされる理由はないしなあ。

「でも、占いによる不幸を避けるために渡されただけなんだぞ……………ここまで痛めつけられるのってありなのか？」

はあ、とため息をついていると、いつの間にかもう自分の部屋の玄関の前。

「ただいま……………」

今日はもうゆっくり休もう……………

「あっ、とうまー！おかえりなさい、待ってたんだよ？」

うん？わざわざ玄関まで出てくるなんて珍しいな、インデックス

「はい！ちょこれーと、だよ！」

……………え？

え？……………インデックスが、あの暴飲暴食シスターさんが、俺に食べ物
を渡している……………だと……………？

「……………占い？」

「へ？」

「いや、男にチョコあげないと死ぬとか……………」

「なあに、それ。とうま、ちょっとヘンかも」

どうやら占いは無関係なようで、インデックスは俺の発言に不思議
そうな顔をしている。

「じゃ、じゃあ何が。お前、純粹に俺にチョコ……………」

俺がそう聞くと、インデックスは満面の笑みでうなずく。

「そっだよ。いつもありがとう、とうま!」

「お、おう………ありがとな」

予想だにしていなかった展開に戸惑いながらも、俺はハート型のホワイトチョコレートを受け取る。

「食べてみてほしいな」

うながされるままに、一口かじってみる。

「……………うまい」

程よい甘さが口の中に広がる。完全に俺の好みを突いている味だ。

俺のコメントを聞いて、インデックスはほっとしているようだ。

「よかつた〜。この前からずっとまいかに作り方教えてもらったんだけど、正直不安だったんだよ〜」

そうか、舞夏か。確かにこの前『メイドを志す者はだなー、人の顔を見ただけでその人が好きな味付けとかがわかるようになっていなくなっちゃならないんだぞー』とか言ってたけど……さすがだな。

あれ…というか、ちょっと待て。『この前からずっと』って

「ひよっとして、俺が前バレンタインデーのこと話した時から…？」

「当たり前だよ。とうまがすっごくちょこれーとを欲しがってたから。びっくりさせようと思って、あの時はあんなこと言っただけど…ごめんね」

「いや、謝ることなんてねえよ。俺のためにわざわざ練習して作ってくれたんだろ？すごくうれしいよ。本当にありがとう、インデックス」

本当に感謝だ。今までの様子から見て、インデックスはまともに料理ができるやつじゃなかった。おいしいチョコを作るのにかなり努力したはずだ。俺に内緒で、喜ばせるために……なんか感動してたな。

「お礼なんていらないよ。……だって、そのちょこれーと、私の気持ちを表してるんだから」

「は？」

言葉の意味をつかみ損ねている俺に対し、インデックスは悪戯っぽい笑みを浮かべて言った。

「そのちよこれーと、『義理』じゃなくて、『本命』だからね！」

その時のあいつの顔は……まあ、真っ赤だったな。

(後書き)

短いですが、いかがだったでしょうか。短編なので急いだらなんか薄っぺらい感じに…てかバレンタインなのにこれラブコメじゃなくね?とか自分で思いました。

でもまあ、感想などあればお気軽にお寄せください。作者が喜びます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8980q/>

上条当麻と占いとチョコレート

2011年10月6日06時16分発行